

# ユー・エム・シー・エレクトロニクス トレンド変化に柔軟に対応



代表取締役社長  
内山茂樹氏

日系最大級のEMS（電子機器の受託生産）企業であるユー・エム・シー・エレクトロニクス（615）。新規上場から1年を迎えるに当たり、これまでの歩みを振り返るとともに今後の展望を聞いてみた。インタビュには同社代表取締役社長の内山茂樹氏が応じ、次のように語った。

## ■拡大続く中国展開について

製品分野別では今3月期第3四半期時点で、車載機器・産業機器向けが売上高の60%超となり、2018年度の中期経営計画を前倒しで達成することができた。中国市場においては、同国政府が国策として進める10大産業に関連する分野を狙って

| 企業名  | ユー・エム・シー・エレクトロニクス |
|------|-------------------|
| 事業概要 | 電子機器の受託製造・開発      |
| 上場日  | 2016/3/15         |
| 初 値  | 2480円             |

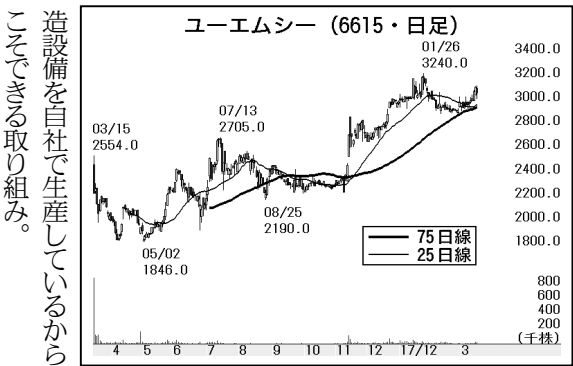
いっている。毎年、中国での賃金が増加する中で、LCA（ローコストオートメーション、低コスト自動化設備）導入などで生き残っ

てきたわれわれとしては、ここからが非常に大きなビジネスチャンスととらえている。半導体分野の日系・米国企業の呼び寄せが話題となっているが、部品の仕入れなどサプライチェーン上ではメリットに働くとみられる。ただ、当社としてはやはり、今後も成長が見込まれる車載・産業機器分野での取引が拡大していくだろう。

## ■収益貢献大きいLCAについて

各製造工程に一貫して導入しているLCAについては、現在、中国を中心に年間1000台程まで内製できるようになった。同時に同規模の製造スペースをベトナムにも確保。LCAの加速が、グループ内の競争力強化にもつながっている。このLCAが当社の利益率向上に大きく貢献しているが、品質向上を実現する点が顧客に評価され受注拡大につながっている。現在はより顧客のニーズに对应えられるよう、オートワーク分野も強化し、設計から製造まで一貫通貫サービスで対応する体制をつくっている。また、AOI（画像検査装置）にAI（人工知能）やディープラーニングなどを組み込んだ新たなLCAも開発中。

来期中には国内工場をSAPとLCAの連携によりスマートファクトリー化し、「グローバルショールーム」とする計画もある。これはSAPにつながるソフトや製



造設備を自社で生産しているからこそこできる取り組み。

## ■新拠点メキシコ工場について

現在は約3分の1が出来上がっており、工場全体の完成は今年12月を予定。トランプ米大統領の発言でメキシコはネガティブ視されがちだが、現地政府・州の後ろ支えも大きく、当社では非常にポジティブにとらえている。今後の海外拠点拡大については、拠点を仕切れる人材、顧客の確保、初期の赤字を連結で吸収し、増益を維持できる見込みがあるか、の3条件がそろえば進出していく予定。

## ■7月からのUMC

最近では30000-31000円と公募価格を上回るようになり、ひとまずはほっとしている。今後ともこれまで通り、堅実な事業の積み重ねを続けて着実に利益を上げていく。『昭和のスピリッツ』と平成のテクノロジー』そして、グループテーマに掲げる『仲間が家族、職場は家庭、損益は家計』の通り、「人」の力を大切にしたいモノづくりをこれからも続けていきたい。